

育む子育て・教育環境の整備」を柱とし、それぞれの目標数値、実施年度を定め、積極的に取り組んできた。一例として、大型製材の誘致、特定健診受診率のアップ、郷づくり事業による集落環境の整備、就学支援や中学生の海外研修などがある。

**渡辺則夫議員**

21世紀は環境の時代であると、ことあることに強調されてきたが、町内において、どのような環境施策を取ってきたか。職員との問題意識の共有は図られてきたか。

**岩崎憲郎町長**

産業政策としての農林

**任期4年間行う具体的な施策は**

**問** 公民館単位や複数集落にまたがるモデル地区の構想は

**渡辺則夫議員**

11月22日の新聞紙上に、

業に環境政策、地域政策としての視点を加えて取り組んできた。例えば、農業では環境保全型農業の一環として、ミニトマトの花粉交配用ミツバチ導入への助成など環境負荷の低減を図るため、町単独事業としての環境保全型農業推進事業費補助金制度の新設などである。

職員には「大豊に暮らし、ふるさと「大豊」に強い思いをもつ。」「町民と同じ目線で地域を見るときにも行動する。」「地域の課題に積極的にチャレンジする。」という二つの目指すべき職員像を示し、職員一人一人が意欲的に努力をする環境を目指し取り組んでいる。

域での支え合いを考えている。モデル地区を設け交流や宿泊所など地域に合わせた機能を持つ核となる施設を造りたい。」と掲載されていたが、この施設の内容は。

**岩崎憲郎町長**  
超高齢社会となり集落の存続さえ危ぶまれる地域がある。このため施設ありきではなく地域住民とともに課題を議論し、地域コミュニティの再生を目指すし、スピード感をもって積極的に取り組む。

**問** 1ターナー者に対し情熱と安心感を

**渡辺則夫議員**

身体は都会で、心は田舎という人がたくさんいる。一方、身体は田舎にあるが、心も田舎にあるという人たちがかりとは言えない。これからの町づくりは、都会には居住しているが、心が田舎にある人たちにターゲットしてもらおう。我々もせっかく身体が田舎にあり、心を田舎へ取り戻すということの基本とした施策を具現化していくことが重要ではないか。入居希望者が空き家情報を知ろうとすれば、住民票と過去2年間の納税証明書の提

出が義務づけられている。町は貸主と借主を紹介するだけで、後は知らないという姿勢を続けるのか。職員としての仕事の楽しさや、やりがいは義務的なことを超えたところにあると思われる。職員と十分に協議をし、問題意識を共有して楽しさややりがい、そして成果が実感できる町政を進めるよう望む。

**岩崎憲郎町長**

本町への定住を目指す改めるべきところは改め、積極的な取り組みを進める。

**本町をPRする看板設置を**

一般質問

**問** 東の玄関(大久保)である国道32号にPR用の看板設置を

**三谷幸一郎 議員**

去る12月8日に中学校の生徒による町内5カ所の駅の清掃作業を寒風吹雪の中行っていたことに對し心より感謝する。

高知県に入る玄関はJR土讃線、高知自動車道、国道32号の三ルートである。かつて、土佐岩原駅にはミニはりまや橋的な公園があり、土佐路を訪れる人々を車窓から楽しませていたが、残念ながら今はなくなっている。復元を望むが困難と考える。一方、高知自動



中学生清掃作業 (岩原駅)

車道には既に土佐路をPRする看板などがあるが、残念ながら国道32号には県・町もない。先般、県観光振興課に対して、例えば坂本龍馬が「よう来たのう」待ちよったせよ」という看板設置を提案した。本町も「アウトドアの町おとよ」といった看板設置の考えはないか。

**岩崎憲郎町長**

中学生の駅の清掃は地域を思つての活動であり本町を担う人材が育っていることには大変頼もしく心から敬意を表する。現在、交流の活性化による地域再生に向けた取り組みを進めており、看板については、この取り組みの中で検討する。

**鳥獣被害対策を早急に**

一般質問

**問** 鳥獣被害対策実施隊を設置し、被害の減少、狩猟税の軽減、交付税の高上げを

**答** 実施隊の設置について検討中

**三谷幸一郎議員**

年々鳥獣被害は拡大し深刻な事態となり、農林家にとっては死活問題となっている。先般、公民館単位で開催した議会報告会での要望として、鳥獣被害に苦しんでおり、早急な対策を講じて欲しいという切実な声があった。この打開策として、農林水産省の制度で「鳥



岩原地内

**防災対策に万全を**

一般質問

**問** 大災害発生時の危機管理は

**答** 大豊町地域防災計画に基づき対応



重森一宗 議員

近年、集中豪雨・竜巻等が各地で発生し地震の心配もある。町内において大規模な災害が発生す

獣被害防止対策軽減につながるが、本町も設置する考えはないか。この設置に加え、狩猟免許試験には、受験に対する補助金も交付されることになっており、町長を先頭に職員も男女を問わず「ふるさと大豊」を守るためにも積極的な受験を期待する。

**岩崎憲郎町長**

現在、平成25年度を目途に大豊町猟友会で検討をさせていただいている。

**大規模災害視察の所見は**

**答** 対応の難しさを再確認

**重森一宗議員**

一昨年、執行部と議会が宮城県栗原市、奈良県十津川村に深層崩壊の視察をした。共に被災地域は本町と同じ山間地である。栗原市では消防関係

者に、十津川村では町長、議長に説明を受けたが、共に「まさかこのような大災害が起きるとは思わなかった」と言われた。自然災害において人力ではどうしようもない



十津川村深層崩壊